

平成31年度 大洲市職員人事異動

市職員237人が4月1日付で異動

人事異動の基本方針

今年度の人事異動にあたっては、「大洲市復興計画～きらめく大洲をみんなで未来につなぐ～」の指針を踏まえ、市民の「思い」「願い」に寄り添いながら災害からの復旧・復興事業の着実な推進に向けた体制を整備するとともに、治水・防災対策や産業振興など直面する市政の重要課題に対し迅速かつ的確に対応するため、組織・機構の見直しを行いました。

1 機構改革など

- ▽総務部と総合政策部を「総務企画部」と「防災安全部」に再編しました。総務企画部では、政策などの総合調整機能と行政管理機能の強化およびその有機的連携を図ります。また、危機管理課を防災安全部の所管とし、防災・危機管理の総合調整や対策、住民の生活安全に関する施策を行うなど、防災安全業務に集中・特化した体制とすることで機能強化を図ります。
- ▽産業経済部を、商工産業課と観光まちづくり課を所管する「商工観光部」と、農林水産課と農山漁村整備課を所管する「農林水産部」の2つの部に分離させ、経済・産業の再生と再興に向けた事業の実施や支援などの強化と管理運営体制の明確化を図ります。
- ▽企画政策課と情報管理課を統合し「企画情報課」に、地域活力課と復興支援室を統合し「復興支援課」とし、総務課、財政契約課、税務課と合わせた5課を総務企画部の所管とします。
- ▽企画情報課では、重要施策の企画立案・調整などの企画部門と、ICT（情報通信技術）の活用による地域情報化および情報セキュリティ

対策などの情報管理部門の組織内連携により業務の迅速化・効率化を図ります。

- ▽復興支援課では、災害からの復旧・復興に係る施策の進捗管理や全体調整の役割を担うとともに、地域活力の創造と地域自治の推進など地域振興施策に取り組みます。

2 主要な事務事業推進のための人事配置

- ▽防災事業の推進および災害時対応機能を強化するため、危機管理課職員を1人増員します。
- ▽7月豪雨による農地・農業用施設災害の早期復旧を図るため、農山漁村整備課に新たに土木技術職の任期付職員2人を配置します。
- ▽肱川治水対策事業を強力に推進するため、治水課内に用地係を設置し、用地取得事務を担う職員を3人増員配置します（嘱託職員含む）。
- ▽教育総務課内に「こども発達支援室」を設置し、障がいのある子どもや発達の気になる子どもとその保護者に対する相談窓口を一元化するとともに、早期からの一貫した支援の充実に努めます。
- ▽肱川地域の復旧・復興に向けた現地対応体制の強化を図るため、肱川地域復興支援担当部長を配置（支所長兼務）するとともに、各種支援策の相談・助言的立場を担う「肱川地域復興支援総括監」（職員OB）を配置するほか、肱川支所地域振興課に「復興支援係」を設置し被災者支援に努めます。

3 異動総数

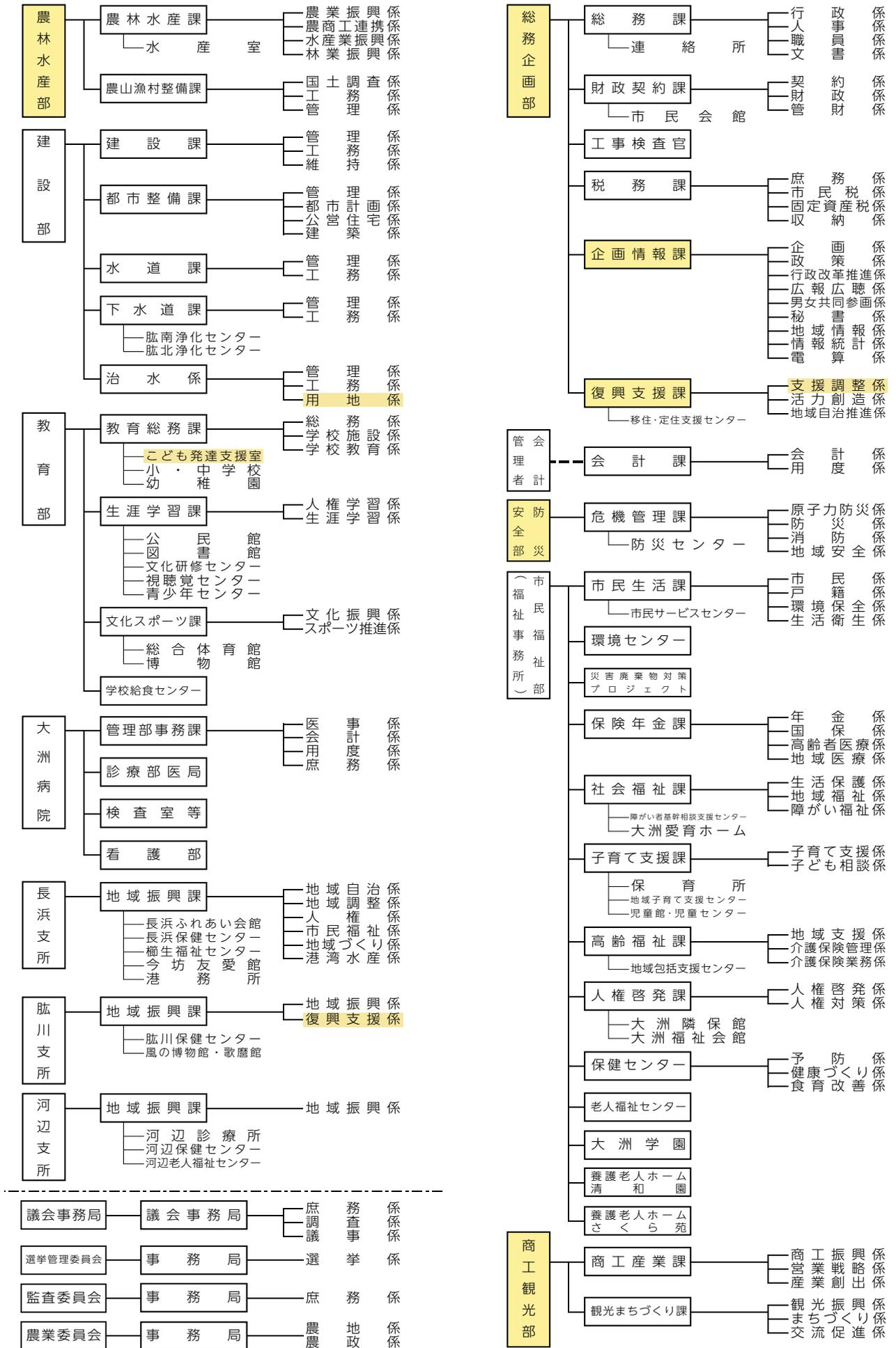
- ▽異動総数 237人（昨年度 215人）
- ▽異動率 33.6%（昨年度 30.1%）



新規採用（18人）

（市立大洲病院） 城戸 七海	（市立大洲病院） 岩崎 良昭	（市立大洲病院） 山下 奈々	（市立大洲病院） 山口 樹	（市立大洲病院） 宇都宮千愛	（市立大洲病院） 富水 浩美
（教育総務課） 清水小百合	（喜多保育所） 稲田 詩織	（新谷保育所） 岡本 友維	（肱川保育所） 井脇 恭奈	（市立大洲病院） 三好 浩美	（建設課） 西川裕一郎
（市立大洲病院） 三好 達也	（高齡福祉課） 二宮 智明	（保健センター） 三好 諒	（農林水産課） 榊田 晃弘	（税務課） 三木 郁弥	（危機管理課） 梶島 聡太
（社会福祉課） 井上 智亮					

大洲市行政組織・機構図



8カ月半ぶりの再開 新たな試みも

オズメッセリニューアルオープン

東大洲にある総合スーパー「オズメッセ」が3月22日(金)、約8カ月半ぶりに営業再開しました。当日は、リニューアルオープニングセレモニーとして、テープカットやもちまきが行われ開業を祝いました。

オズメッセは、平成30年7月豪雨で床上125センチメートルまで浸水し、商品や備品など甚大な被害を受けました。その後、新たなコンセプト「真の地域密着」をもとに、全面リニューアルするこ



買い物支援・見守りとともに

オズメッセは、株式会社とくし丸(徳島市)と提携し、3月28日(木)から移動スーパー「とくし丸」の運行を開始しました。冷蔵・冷凍庫を備えた軽トラックに、生鮮食品や総菜、日用品など約400品目1200点を積み込み、市内の6コースを巡回します。

出発前には、大洲市と株式会社オズメッセによる「大洲市高齢者見守りネットワークに関する協定書」の調印式が行われました。二宮市長は「周辺部での少子高齢化が進む中、買い物支援がひとつの



課題である。とくし丸の運営により、多くのみなさんの買い物を支えていきたい。また、対面販売という利点を生かした見守りにも期待している」とあいさつしました。



とくし丸販売スタッフ
西山 昌吾 さん

私自身も大洲市出身であり、親戚などからも買い物に困っているという声をよく耳にしていました。

この「とくし丸」は、そういったみなさんを助けになる存在になると思います。また、地域見守り役としても地域に貢献できるやりがいのある仕事です。このような仕事は初めてであり、緊張していますが、より多くのみなさんが買い物を楽しめるよう頑張りたいです。

主にリニューアルした点は、生鮮食品やおかずなどの充実のため売り場を1・2倍に広げ、少人数世帯に合わせた少量でおいしい商品が提供されるようになります。また、高齢者や子どもが利用しやすいように、陳列棚が下げられ、通路が拡張されました。オープニングセレモニーで、愛媛たいき農業協同組合の菊地秀明ひであき組合長は、「オズメッセを東大洲の拠点として、今後も地域密着の店舗を目指したい」とあいさつしました。



平成31年度大洲市消防団入団式が4月4日(木)、大洲市総合福祉センターで開催されました。

入団式では、今年度入団する19人を代表して予子林分団の三瀬裕貴さんに矢野正祥消防団長から辞令が渡されました。

二宮市長は、「住民の生命と財産を守る消防団員として訓練に励み、地域防災の要となるよう期待している。市としても、団員のみなさんが活躍できる環境づくりに努めたい」とあいさつしました。

また、矢野団長からは「今日から地域の消防団の先輩や消防署員

地域を守るために
大洲市消防団入団式



の指導を受け、さまざまな訓練を通して、一日でも早く一人前の消防団員となることを望んでいる。

近年、大規模な災害が多発しているが、自分の地域は自分で守るという心構えを持って、精いっぱい活動に臨んでほしい」と訓示がありました。

今年度入団した団員たちは、厳しい訓練や研修などに参加し、自己研さんに取り組んでいくことになり。今後、若い力が地域防災活動の中心的役割を担うことが期待されます。

大洲のええモン 今年もずらりと

平成30年度大洲ええモンセレクション認定書交付式・認定品発表会が、3月22日(金)、オズメッセ内の特設会場で開催されました。

大洲ええモンセレクション認定制度は、地域産業を活性化し、大洲市のイメージアップにつなげることを目的に、平成24年度から開催されています。昨年7月には、第7回目となる認定審査会が開催され、新規5品目と更新18品目が認定品として決定しています。



開会にあたり二宮市長は「私たちの身近にある商品には、たくさんの魅力が詰まっている。認定事業者には、大洲特産品のトップランナーとして活躍してほしい」とあいさつしました。

また、認定事業者を代表し、株式会社サンフーズ代表取締役の堀田修治さんが「都市圏での知名度向上がいちばんの課題である。今後も、魅力ある特産品のPRや新規開発に取り組んでいきたい」と抱負を述べました。

認定品の試食会では、多くの人が参加し、大洲の食材の魅力を感じていました。



オリンピックの開催に向けて

愛媛FCの神谷優太選手が3月12日(火)、大洲高等学校を訪れました。この事業は、東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心の向上を目指し実施されました。神谷選手は、アジア大会2018に出場し、東京オリンピックの候補選手です。大洲高校では、生徒とリフティングをするなど交流を深めました。

その後、市役所を訪れた神谷選手は、「日本で開催されるオリンピックに出場したい。優勝するつもりでこれからも練習に取り組みたい」と今後の抱負を述べました。



「赤い橋のある町で」上映会

長浜を舞台にした「赤い橋のある町で」の上映会が、3月12日(火)、長浜スポーツセンターで行われました。会場には、長浜中学校生徒や地元住民など約200人が集まりました。

この映画は「大洲長浜映画制作委員会」と、森幸一(こういち)郎監督が撮影・制作しました。森監督は、「地元の人と一体となって撮影できた。長浜には、観光資源が豊富にあり、どのように生かして撮影するかとても悩んだ」と話しました。

今後は、新居浜、松山、東京などで上映される予定です。



市民福祉の向上を目指して

大洲市地域活性化包括連携に関する協定調印式が3月20日(水)、市役所で行われました。

この協定は、大洲市と株式会社ファミリーマートが、密接に連携・協力をする事により、市民や観光客のサービス向上、地域の活性化を図ることを目的としています。愛媛県内の市町では、大洲市が初めて協定を締結しました。

調印にあたり二宮市長は「平成30年7月豪雨での連携がきっかけで、この協定を締結することになった。コンビニエンスストアは、市民生活にとって密接な関係がある。今回の協定締結により、幅広く連携・協力し、ともに市民福祉の向上に努めたい」とあいさつしました。

また、株式会社ファミリーマート四国ディストリクトの西森康浩(やすひろ)部長は「この協定を機に、自治体との連携を密にし、地域に根差した店舗を目指したい」と述べました。

【協定の概要】

住民福祉やサービスの向上に関する事	子どもの見守り、青少年健全育成への協力、乳児ミルク用お湯の提供 など
防災対策に関する事	災害発生時における食料供給に関する受注・配達への協力、避難情報の提供 など
観光振興等に関する事	スポーツイベントの周知、地元産商品の取り扱い促進、観光客への化粧室の提供 など



大洲のこだわりをご賞味ください



おおずプレミアムマルシェが、3月17日(日)、おおず赤煉瓦館で開催されました。お客さんに生産者自慢の農作物や加工品を紹介し、おいしいものを安心して食べてもらおうと実行委員会が企画しました。今回は、市内外から11の店舗や団体が出店し、こだわり抜かれた商品を販売しました。

訪れた人は、それぞれのお店でお気に入りの商品を探し、買い求めていました。今後も、おおずプレミアムマルシェは、2カ月に1回、赤煉瓦館にて開催される予定です。

大洲城復元15周年 ガイドブック作成



市は、復元15周年を迎える大洲城を主役とした新しいガイドブック「大洲城下物語」を、3月1日(金)に発刊しました。

この「大洲城下物語」は、「臥龍山荘」、「如法寺」に続く大洲歴史三部作の完結作です。築城の謎から復元に至るまで、お城の好きな人はもちろん、歴史に興味のある人、これから学んでみようと思う人にも楽しめる内容になっています。県内各主要書店および「あさもや」、「大洲城」にて販売しています。

高齢者叙勲



瑞
宝
双
光
章

上 杉 潤 さん
(中 村)
元公立中学校長

上杉さんは、長年にわたり教育業務にご尽力されたご功績により、このたび「瑞宝双光章」を受章されました。

長年の活動に最高位章

ボーイスカウト日本連盟の最高位章である「富士スカウト章」を受章したボーイスカウト大洲第一団の隊員の西原凜さんが、3月27日(水)、大洲市役所を訪れ、受章の報告を行いました。

西原さんは、小学1年生から大洲第一団で11年間スカウトの活動を続けています。現在は、松山市在住ですが、週末には大洲に戻って活動をしています。受章について西原さんは、「受章できてとてもうれしい。将来は、ボーイスカウトを推進していく立場になりたい」とあいさつしました。



国土交通省大洲河川国道事務所・山鳥坂ダム工事事務所だより

鹿野川ダムトンネル洪水吐こうすいばき 初の通水

鹿野川ダムでは、トンネル洪水吐の初の通水を、3月12日(火)に実施しました。当日は、約300人の見学者が集まり、初の通水を見守っていました。

今回の通水試験は、トンネル洪水吐の本格運用を前に、実際に水を流してゲートの動作状況、水質や流況を確認するために実施しました。

鹿野川ダムでは、肱川流域の洪水被害を軽減することを目的に、ダムに貯められる洪水の容量を約1・4倍に増やすなどの改造事業を行ってきました。



トンネル洪水吐「初の通水」

トンネル洪水吐の工事は最終段階に入っています。今後ダム事業へのご理解、ご協力をよろしく願います。



通水の瞬間



見学の様子

【問い合わせ先】

鹿野川ダム管理庁舎

☎ 23350

野鳥

ヤブサメ (藪雨)
スズメ目 ウグイス科
全長 10.5cm



4月の始めにやって来て「シシシシシシシ……」と尻上がりにさえずるウグイスの仲間です。名前の由来は、やぶの中で小雨が降るように鳴くことからきているようです。たまに夜にもさえずるため、昆虫に間違えられることさえあります。

野鳥の中では一番高い16キロヘルツもの声を発することで知られ、お年寄りには聞こえにくいそうです。また、日本で5本の指に入る小さな鳥で、わずか8～9gの体重で東南アジアから子育てにやって来ます。

カレンダーや地図を持たず、毎年同じ所に命がけで帰って、次の世代に命をバトンタッチする彼らを見ていると、文明に惑わされて、生き物本来の本能を忘れかけてしまった人類は、この先どこに向っているのでしょうか。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト⑤

文化財

東宇山のハルニレ
愛媛県指定天然記念物
法円寺所有



この木は、肱川右岸の感応寺山かんのうじ (標高688.6m) 南西部にある小高い丘の上で、雑木に交じって自生しています。樹高は約15m、枝張りは東西約24m、南北18mを誇り、樹齢は約400年と推定されます。ハルニレのことを、市内では「ネレノキ」、「オンニレ」とも呼びます。

ハルニレは本来、北海道や東北など日本列島北部が分布の中心で、中国・四国は分布の南限にあたります。しかし、分布の南限にあたる地域にもかかわらず、推定樹齢が約400年になる巨樹にまで成長する例は極めて珍しく、県内では他に例がありません。こうした希少性だけでなく、ハルニレの特徴や周辺の植生を考えるうえでも重要な1本といえます。

(昭和39年 3月27日指定)